

リハビリ通信

「ニューロダイバーシティ」という考え方をご存じですか？

心理職に関わる方の中には神経発達症（発達障害）と診断されている方が多くいらっしゃいます。最近、神経発達症について「ニューロダイバーシティ」という考え方が広がりつつあるのをご存じですか。

ニューロダイバーシティ（神経多様性）は、Neuro（脳・神経）と Diversity（多様性）の2つの言葉の組み合わせからなり、ここでは、私たちは一人ひとりの脳が異なる個性を持つ「脳の多様性」の中で生きていて、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症（学習障害）などの神経発達症は「脳の個性・脳の少数派」と考えます。

ニューロダイバーシティの概念は、医療・福祉の世界の他、就労人口の維持や企業の競争力強化の観点から経済界にも広がり、経済産業省でも神経発達症の人の特性を活かし活躍できる社会を目指す取り組みを進めているそうです。



それでも社会は多数派中心にできていて、神経発達症のある人は少数派ゆえの生きづらさを抱えています。日本人同士なら「そうだよね、わかる～」になるニュアンスが外国の人にはピンとこないように、そこに能力の欠如や優劣はありません。神経発達症のある人が分かりやすい社会は、皆もわかりやすい社会です。多くの人が理解の幅を広げることができれば、誰もが生きやすい社会につながるようになると思います。

【参考文献】 経済産業省ホームページ 『ニューロダイバーシティの推進について』（2023）
黒坂真由子 『発達障害大全』 日経 BP（2023）